

## 2014 年度前期 大学院教育改善委員会 議事録（案）

1. **開催日時**：平成 26 年 9 月 29 日（月）13:05-15:30
2. **開催場所**：S2 棟 3F 会議室
3. **出席者**：金利昭，沼尾達弥，吳智深，山田稔，原田隆郎，井上涼介，信岡尚道，村上哲，藤田昌史，熊澤貴之、平田輝満，車谷麻緒、桑原祐史（順不同，敬称略）  
**欠席者**：横木裕宗、一ノ瀬彩（順不同，敬称略）

## 1) 前期学科各科目の点検と評価

## 1. 地震工学特別論（井上）

三力の授業である。英語で授業をしたが、特に問題はなかった。

## 2. 土質基礎工学特論（村上）

購読する教科書を 1 つ決めて、学生に考えさせる形式で授業を行った。大学院の授業形態についてはきちんと授業する必要がある、

## 3. 構造工学特論（吳）

計算式があるような授業を 15 回やるとなかなか学生のモチベーションを保つのが難しいため、10 回を従来までの授業、5 回を式が出てこないような形式を取った。

## 4. 土木計画学特論（金）

資料をグループで読み込み、発表させる形式と、便益に関する課題を行う課題を設定した。また、複数の書籍を読ませでのディスカッションを行った。いわゆる講義+演習・ディスカッション形式で授業を実施した。

## 5. 沿岸環境形成工学特論（横木）

特に指摘はなかった。

## 6. 建築デザイン学特論（一ノ瀬）

時間外の作業が少々あるようであるが、詳細は分からない。

## 7. 社会基盤情報処理特論（原田）

授業内容は例年とほぼ同じである。本年は人数が多かったので発表会はなかなか時間がかかった。理論を説明している際には学生は苦しそうであったが、よくがんばっていた。

## 8. 構造物の数値解析法特論（車谷）

有限要素法等を説明しているため、基礎の構造力学を把握している必要があるが、学生はそのレベルにはない。多次元で表されている式が理解できる力をつける必要があると考えられる。

9. 都市システム工学演習 I，サステナビリティ学特別演習 I，都市システム工学特別研究  
サステナビリティ学特別研究 I

- 実質でこの資料を書いているか否かについて不明である。
- これらの科目に関しての記述は修士研究の内容ではなく、大学院生としての能力形成のために行った内容である必要性はないか？修士論文そのものとのリンクは基本的には無いのではないか。
- 学生の授業への希望については再度書式を配布し、来週に回収することになった。

## 10. 学外実習

### 2) まとめ

- 大学院講義の体系化を進める必要がある。
- 4年生までは社会で成り立つよう、大学院では高度な専門知識を身に着けるよう、授業を行うことが大切である。
- 授業のやり方はどうするか：
  - 基礎+応用を各分野毎に作るやり方、授業のやり方はこの程度 UP させて行きたい。
  - 基本の科目を X 本、応用の科目を Y 本とした履修のさせ方もある。
  - 講義内容を教員の専門で決めるのではなく、講義を決めてみればよいのではないか？

### 3) FD 研修会

#### 1. 皆さんの研修会発言内容

- ・現在の学生は勉強時間が少ない。
- ・Total の学習時間を確保するために教育することが重要。
- ・自主的に学生が学習するようになるためには何が重要か？
- ・やっていることを明確に示すために時間で示す必要がある。
- ・学習不足の人にやらせる方法を議論すればよいのでは。
- ・学習時間の担保はセメスタ単位で集計すればよい。
- ・学生に何をどれだけやらせるかは教員が指示し、その把握は補助的に学生に依頼する。
- ・授業中に解いた問題の数値を替えるレベルの課題を出せば学生はやってくる。
- ・教科書を如何に読ませるか、が重要である。
- ・選択科目はモチベーションを上げるように工夫する必要がある。
- ・学生アンケートの予習・復習時間の扱いについて、設問はこれで良いのだろうか？（要は1時間以上が最大の予習・復習時間であることはおかしいのでは？本来4時間ではないか）
- ・どういう手法で90分で学生のやる気をUPさせたかを示すべき。これを合算して表現すべき。
- ・出したレポートをきちんと確認し、把握する必要性。
- ・4年生に持ち越すことができる必修科目数を検討することで、2-4年生の間の科目配置に余裕を持たせることができるが如何でしょうか？
- ・情報処理は講義科目から演習科目に変えてみても好いのではないか（検討事項）

#### 2. まとめ

- ・Q1 に対するアンケート結果の解釈の仕方を学生に話す。学生に出すレポートは標準的な必要時間を示す。学生にはシラバスに計画時間を示す。
- ・Q1 の学科目標値を当面 3.0 として教員で取り組む。
- ・10/10 までに議事録を学務に出す必要性。検討必要事項は領域長が学科会議に提案することにする。
- ・過剰な学習時間を使っている所は下げる努力をし、逆に少ない所は増やすようにする。